

ベラルーシ公開情報とりまとめ

(3月11日～3月17日)

2024年3月21日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- アレイニク外務大臣のインド訪問(3月12日、13日)
- アレイニク外務大臣のモンゴル訪問(3月15日)

【ルカシェンコ大統領動静】

- 15人の恩赦(減刑)に関する大統領決定の署名
・対象者のうち、9人が女性、11人が未成年のうちに犯罪を犯した者。
(3月21日 大統領府)

【外交】

- アレイニク外務大臣のインド訪問(3月12日、13日)
・アレイニク外務大臣は、ジャイシャンカル・インド外務大臣と会談。両大臣は、経済協力、地域間及び議会間との関係、条約・法的基盤の見直し、ベラルーシにおけるインド人留学生の教育を含む人道的協力につき協議。さらに、地域情勢、世界安全保障及び食糧安全保障、国際関係と世界経済における現在の危機的状況につき詳細に協議。
・その他、アレイニク外務大臣は、マンダビヤ・インド保健・家庭福祉大臣、ゴヤル・インド商工大臣、ジョシ・インド財務次官と会談。
(3月13日 外務省)

●「非友好的国」に対する新たな制裁措置の導入

- ・4月1日から2026年末まで、ベラルーシでの事業を常設の代表機関で行っておらず、事務所が「非友好国」に所在する外国企業に対し、配当の税率を15%から25%に引き上げ。
・さらに、2026年12月31日まで、二重課税回避に関する、米国、ラトビア、リトアニア、ドイツ、ポーランド等の国との協定の一部の条項を停止。
(3月7日 法律ポータル、13日「ゼルカロ(鏡)」)

●アムブラゼヴィチ外務次官による国連欧州経済委員会地域フォーラムでの演説

- ・欧州では、地域経済連合間の障壁がますます明確に形成されつつある。輸送の制限、国境検問所の閉鎖、貿易の禁止、銀行取引の問題、査証発給の禁止、文化協力の禁止は、明らかに新たな「鉄のカーテン」を描き出している。
・欧州は制裁によって世界的な食糧危機を引き起こし、アフリカ諸国からベラルーシのカリ肥料へのアクセスを奪った。
・2023年の結果は、我々の行動の正しさに自信を与えてくれる。2023年、ベラルーシのGDPは3.9%成長したが、これはEUの平均より何倍も高い。
(3月13日 外務省)

- リトアニア議会(セイマス)は、欧州委員会に対し、ベラルーシとロシアからEUへの穀物輸入を禁止するよう求める決議を可決
(3月14日「ゼルカロ(鏡)」)

●リトアニアに対する対抗制裁措置の強化

- ・ベラルーシ側は、本年3月1日以降、リトアニアがベラルーシとの国境検問地点2箇所を閉鎖したことに対応し、強制措置の導入を決定。
・3月14日付閣僚会議決定第176号により、食品、建設機材、家電製品を含む特定の商品のリトアニアからの輸入を禁止。さらに、原産国にかかわらず、ベラルーシ国内での販売目的で輸入される一部商品(古着、自動車部品、タイヤ、アルコール等)の、両国国境検問地点通過を禁止。ただし、個人使用目的でこれらの品目を輸入する際には、当該措置は適応されない。
(3月14日 法律ポータル、国営ベルタ通信)

●アレイニク外務大臣のモンゴル訪問

・アレイニク外務大臣の他、産業省、農業食糧省、非常事態省、その他ベラルーシの団体の代表者らがモンゴルを訪問。

(1)フレルスフ大統領との会談

・近・中期的な二国間プロジェクト、特に農業、農産複合体、機械製造、インフラ、教育、観光における取り組み等につき協議。

(2)アマルサイハン副首相との会談

・現在の貿易・経済関係の状況、協力プロジェクトの展望を含む、ベラルーシ・モンゴル間の協力の経済・人道的側面につき協議。モンゴル非常事態庁への100台以上のベラルーシ製消防車の輸出プロジェクトについても協議。

(3)バトツェツェグ外務大臣との会談

・二国間の協力プロジェクト、世界規模での喫緊の課題、国際場裡での両国の連携の問題、両国内務省間の協力につき協議。国際的な問題について多くの点での立場が一致していることを確認。

(4)その他

・アレイニク外務大臣一行は、モンゴル非常事態庁を訪問。アリュンブヤン同庁長官と会談。
・その他、農業、食品生産関係の施設を訪問し、交渉を行った。

(3月15日 外務省)

●ロシア大統領選の結果に関するベラルーシ外務省声明

・ロシアで実施された大統領選挙は、国内法を完全に遵守し、競争原理に基づいて実施され、市民の自由な意思の表明が確保された上で行われた。

・選挙プロセスが穏やかな経過をたどったことは、前例のない困難に直面したロシア国民の団結力と、国の指導部が追求する路線に対する国民の幅広い支持を物語っている。

・投票プロセスは、ベラルーシからの監視団を含む多数の国際監視団によって注意深く監視され、ロシア大統領選挙の正当性に疑念を抱かせるような事実は記録されなかった。

・この観点から、我々はすべての独立国に対し、ロシ

ア国民の主権的意思を尊重するよう求める。

(3月17日 外務省)

【内政】

●当局が、国外で期限切れの旅券を所持するベラルーシ人に罰金を科すとの連絡を行っている事例

・国外に居住しており、既に旅券の期限が切れているベラルーシ人が、ベラルーシ国内の登録住所のある行政地区の移民局から、「有効な身分証明書を持たずに居住又は期限切れの旅券を所持したまま居住していた場合には160ベラルーシ・ルーブル(約50ドル)の罰金が科される」との通知を受け取る事例が報告されている。同通知では、住所登録地の関係機関に連絡を取り、旅券を交換するよう促されている。

(3月13日 「ゼルカロ(鏡)」)

●3月17日現在の政治犯の数は1,410人

(3月17日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

●ベラルーシから欧州への不法越境の試み

(3月11日～3月14日)

・リトアニア国境警備局は少なくとも15人を阻止。

・ラトビア国境警備隊は少なくとも70人を阻止。

・ポーランド国境警備隊は少なくとも430人を阻止。

(3月12日～3月15日 Pozirk)

【治安・犯罪】

●弾薬密輸の疑いでベラルーシで逮捕されたリトアニア人が、拘束中に死亡

・死亡したリトアニア人は、ピストルの薬包98個を所持していたとして、2023年12月31日にベラルーシ・リトアニア国境検問地点で拘束されたが、拘束中に死亡。

・本件に関して、リトアニア外務省は在リトアニア・ベラルーシ臨時代理大使に対し、断固とした抗議を表明した文書を手交。ベラルーシ側に対し、拘束時の状態に関する情報を直ちに提供し、死亡の事実を確認し、全ての状況を開示するよう要求した。

(3月12日 「ゼルカロ(鏡)」)

【経済】

●国営「ベラルーシ冶金工場(BMZ)」及び木材製造企業「モストフドレヴ」が制裁に関して異議申立て

・欧州司法裁判所は、制裁は正当なものであるとして、両社による異議申立てを棄却。

(3月12日 「ゼルカロ(鏡)」)

と妨害している。

・2020年の大統領選挙後から2023年末までの間に、廃止されたNPOは少なくとも1,509団体にのぼった。また、市民によるイニシアチブを「過激派組織」と認定する事例が増加した。

(3月14日 Pozirk)

(了)

【抗議勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表の動向

(1) 欧州議会による、ベラルーシの政治犯との連帯活動に参加(3月11日～14日)

・同活動を通じて、同議会議員らによる、ベラルーシの政治犯宛てのはがき628枚が集まった。

(2) リトアニア議会(セイマス)での会議「民主的なベラルーシの長期的未来のための投資:改革のための主要戦略」に出席し、政治犯の状況につき演説。

(3月17日 チハノフスカヤ氏公式サイト)

●現在ウクライナ側で戦っているカリノフスキー連隊隊員は約5,000人

・同連隊のプロホロフ司令官の発言によるもの。

(3月11日 Pozirk)

【その他】

●国連人権理事会は、2020年以降のベラルーシの人権状況に関する報告書を公開

・同報告書によれば、2020年から2023年にかけて、5,500人以上が政治的理由で有罪判決を受けた。

・2020年以降に調査を受けた657人のうち、29%が拷問を受け、61%が虐待を受けたと回答。また、その結果重度の身体的・精神的障害を負った人々も確認されている。

・また、妊娠した女性受刑者が医療を受けることを許されずに死産し、その事実を口外しないよう脅された事例も報告されている。

(3月15日 国連人権理事会、18日 「ゼルカロ(鏡)」)

●人権団体「Lawtrend」は、2023年の市民団体の活動について報告

・報告書によれば、当局は結社の自由の行使を平然